



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

息の音が聞こえる夏の長き活動

岐阜県交響楽団

理事 渡部 圭



言葉で言うなら、ずいぶんとべらぼうな無茶ぶりでした。

先日、岐阜RCの音楽会が岐阜市の「クララザール」じゅうろく音楽堂」でありました。演奏者は岐阜県出身の若手チェリストで、かつて岐響ジュニアオーケストラにも所属していた清水陽介さん。

7月、岐阜へ赴任したのと同時に岐阜県交響楽団の理事の末席に加えていただくことになりました。音楽はただ黙って聴くもの、としか思っていないド素人の私が交響楽団の役員になるとは夢にも思いませんでしたが、どうぞよろしくお願いいたします。

この小さなホールに初めて足を踏み入れた私は前から2列目に座りました。舞台とは目と鼻の先です。すると、リストやピアノソラの演奏中に時々、「フツ」とか「ウー」とか妙な音が聞こえてくるのです。まさか観客のいびきでもあるまいと、よくよく清水さんの顔に目を凝らしながら聴いていると、その音は清水さんの呼吸そのものだったのです。

RCよりも楽団へのお誘いを熱心に受けたことです。その後、演奏会に一度足を運んだだけで、事務局から「音楽と地域文化」について書くようにとのご指示。今はやりの

言葉で言うなら、ずいぶんとべらぼうな無茶ぶりでした。先日、岐阜RCの音楽会が岐阜市の「クララザール」じゅうろく音楽堂」でありました。演奏者は岐阜県出身の若手チェリストで、かつて岐響ジュニアオーケストラにも所属していた清水陽介さん。

さんも「自分が出したい音を出してくれる」と絶賛していました。それだけでなく演奏者と観客がとても近く、演奏者の生の息遣いまで聞こえてくる場なのだと感じました。

音楽堂は岐阜RC会長も務められた産婦人科医の故真鍋英夫さんが1991年、地元の文化芸術の向上のため私財を投じてつくり、シューマンの妻クララとドイツ語でホールを意味するザールから命名。いったん休館した後、2015年に十六地域振興財団が運営を引き継ぎ、再出発しました。街中にこんな素晴らしい施設が残されたことがこの地域と音楽の近さを物語っており、地域に音楽が溶け込んでいく一つの証しだと思います。

岐阜県交響楽団の歴史を少しづつ知るにつけ、地域密着のアマチュア楽団ゆえに愛され、岐阜から海外まで幅広く活動しているのだと感じました。演奏者の息遣いが聞こえるような身近で、かつ息の長い音楽活動が続けていくことを期待したいと思います。そのため私たち中日新聞社も微力ながらお手

伝いをしていくつもりです。恥ずかしながら私には演奏経験がほとんどありません。一方、妻はコロナ禍をきっかけにカリヨンチャイム、クリスタルボウル、タンゴドラムといった新しい楽器をヒーリング効果があると言って練習するようになりました。それに私も多少影響され、最近ネットでディジュリドウを購入しました。オーストラリア大陸の先住民アボリジニが奏する長い筒状の楽器です。これにひかれたのはペイントの装飾が美しいというだけの理由。ネットの映像を見ながら音が出るまで数日かかる始末で、唇や舌の使い方や呼吸法を習得できるようにするのは一体いつのことやら。毎日懸命に練習されている楽団員の皆さんの姿を思い浮かべながら、私も長い筒に息を吹き込みたいと思っています。

(中日新聞岐阜支社長)

和田一樹先生 インタビュー

今回、岐響とは一年半ぶりの顔合わせとなります和田一樹先生に、プログラムや先生の音楽観などをお話いただきました。

今回演奏される曲目の、聴きどころをお話いただけますか？

ブラームス 交響曲第2番

まず第1楽章 Allegro non troppo はのどかな自然の息吹と静かな幸福感があり、冒頭はホルンと弦で光がそつと差し込むように始まります。

これはまさにヴェルター湖畔で作曲したこともありすが、湖畔や草原の風景を思わせる穏やかなテーマですね。中間部でのやや陰りを帯びた短調への転調はブラームスらしい哀愁であり心揺さぶられます。全体としては冒頭主題がさまざまな姿で再登場する構築の巧みさと金管が輝く

クライマックスの壮大さを是非聴いていただきたいですね。

第2楽章 Adagio non troppoでは教会の中の深い瞑想そして、内面的に熱いものを感じます。中間部では激しく感情が揺れる瞬間もあり、ブラームスの内省的な性格が表れています。なんとと言っても、チェロと木管が織りなす“静かな対話”のような場面に注目してほしいですね。

第3楽章 Allegretto grazioso (quasi andantino)は優雅で軽やかな小舞曲で、オーボエが歌う主題がとても愛らしく、まるでウィーンの小径を散歩しているよう。中間部で急にテンポが速まり、軽快な舞曲風になります。この楽章は、ブラームスの“ユーモアと温かみ”が感じられる

曲となっています。

第4楽章 Allegro con spiritoでは抑えきれない喜びの爆発があり、弦の静かな導入から、突如として明るい主題が飛び出し、これまでの内省を解き放つような、力強く晴れやかなエネルギーを感じます。終盤の金管と弦の“勝利のファンファーレ”はご期待ください！



ブラームス ハンガリー舞曲集

全21曲の作品ですが今回はこの中から6曲演奏します。当初はピアノ連弾版(4手)として出版されましたが、のちにブラームス自身と他の作曲家がオーケストラ編曲を行いました。ブラームスが若いころ、ハンガリー出身のヴァイオリニストエドゥアルト・レメーニと旅をしていた際、ハンガリーのジプシー音楽(当時の“ハンガリー風”民族音楽)に魅了され、その旋律を素材にしたことから生まれました。ハンガリー舞曲は、基本的にツインバロム(民族打弦楽器)やヴァイオリンが奏でるジプシー音楽のノリを再現しています。リズムの“揺れ”や“突然のテンポ変化”が命で、速い部分(フリスカ)と遅い部分(ラッシ)を交互に使って、踊るような興奮と哀愁を表現しています。1番は私の特に好きな曲で、これを岐阜県交響楽団の皆さんと演奏できるのは嬉しいです

ね。3番、6番、14番、16番、19番

は隠れた名曲で、それぞれに個性があり、「深い郷愁」「陽気な即興性」「どこか哀しい微笑」など、ブラームスらしい多面性を感じます。ここにも注目していただきたいです。

ドヴォルザーク 序曲「謝肉祭」

まさに生命力と歓喜が爆発する祝祭音楽で約10分の短い管弦楽曲ですが、ドヴォルザークの「明るさ・民族的リズム・人間味」が詰まっています。コンサートの幕開けにふさわしいといえます。

冒頭から生命の爆発を感じさせ歓喜の渦へと誘います。最初からトランペットとティンパニが高らかに鳴り響き、弦が細かいリズムを刻み、陽気な人々が踊りながら街に繰り出すような情景を描きます。民族舞曲の要素、ポルカやフリアントなどもあり、ドヴォルザーク特有の躍動感あるリズムを感じることができるとおもいます。中間部では夜の静けさの情景が表現され、喧噪が去り、

クラリネットやオーボエが優しく柔らかな旋律を奏でます。弦が柔らかく支える中で、木管の旋律が心に染みます。またヴァイオリンソロにもご注目ください！最後は祭り再開で、熱狂のフィナーレです。中間部の静けさから一気にテンポアップ



し、最初のテーマが戻ってきて、音楽はさらにエネルギーに。ティンパニと金管が炸裂し、クライマックスは歓喜の大爆発です！この人間味溢れる音楽を岐阜県交響楽団の演奏で、是非ともご堪能ください！

ありがとうございます。

岐阜県交響楽団について、先生の

お感じになられたことをお話いただけますか？

音楽に対して真摯に向き合う方が多く、リハーサルをしても、すぐに音が変わり素晴らしい音楽になっていきます。

岐阜県交響楽団の皆さんと再び会えただけで笑顔になりました!!いつも楽しく音楽が作れる岐阜県交響楽団の皆さんと再び演奏会ができること、心より感謝しています！

ありがとうございます。

最後に、先生が指揮をされていて「音楽っていいな」と感じる時のこととお話いただけますか？

リハーサルや本番で、合図を出す前にみんなの息が同じ方向を向いたと感じる瞬間はいつも嬉しく思います。指揮をされていて、音楽が自分を通り抜ける瞬間、は好きですね。また、静かな和音が鳴っただけで、会場の空気が変わるときも好きです。



本日は大変興味深いお話、ありがとうございました。

空気の密度、温度、客席の呼吸までもが変わる気がします。これは演奏の技術ではなく、その時にしか味わえない空気感です。その場にいる全員が「音の力」を共有しているのを感じます。また曲の「魂」が見えた瞬間もすきです。何度も練習してきた曲の中で、ある日突然、作曲家の心がふつと見えるような時があります。そのときの感動は、もう言葉にならない。まるで過去と現在がひとつにつながる瞬間ですね。岐阜県交響楽団の皆さんとその境地に入りつつあります。楽しみです。

懐かしの舞台 岐阜市民会館

20年ぶりのステージを振り返って

前回の定期演奏会は、約20年ぶりに岐阜市民会館（現ぎふしんフォーラム）で開催されました。

岐響にとって思い出深いこのホールとの再会を、二人の団員がそれぞれの視点で語ります。

岐阜市民会館の思い出

オーボエ 若山由美

1993年（私生まれてないわ）って言わないでね）岐阜市民会館「ベートーヴェン交響曲第九番合唱付き」1番オーボエアシ（fの補強）で私は岐響定期デビューしました。一児の出産後、久しぶりのオーボエでしたが、学生の頃から慣れ親しんだ岐阜市民会館。懐かしく感じていた（のではないかな）余りに昔で本当は覚えていない当時、3歳の娘、1歳の息子、トロンボーン、の夫と共に毎週土曜日の練習に参加。本番の前日もそれは変わらず、鰻の寝床のような間口が狭くて奥行ききのな

が、楽屋で、夫と交互に子守をしながらか練習参加していました。

そんな体験やら、管楽器なので自分が吹いていない曲の間に過ごすことや、市民会館の一番の思い出はやはり細長い楽屋。今回久しぶりにその楽屋を使用しましたが、よくこんな狭い所で全女性団員が着替えたり昼食を摂ったりできたもんだと驚いたり感心したり。今回は同じ楽屋だが管楽器の女性だけだったので、ゆったりと使えました。

しかしながら、昔は楽屋で音出しが出来たけれど、今回は別室でした。迷いに迷ってやっとたどり着いた場所は、新しい楽屋？会議室？このカウンターは？そう。そこは元の市民会館喫茶「クレッシェンド」ではないか！リノベーションしてあっても、どこそここに面影があつて、音出ししながら「演奏会後はここで打ち上げたなあ」等と思い出に浸りました。

トイレが楽屋に少なく、観客と同じ

トイレまで行かなくてはいけないのは相変わらずで、そこはリノベーションされていなくて残念。

音響はすこぶる悪いと当時は思っていました。指揮者によつて

は、響かないから「バーン」と自分で響きを作りなさい」と無理難題をおっしゃる方も。今回の改修工事で以前より良くなったのではと、会場で聴かれた多くの方からの声がありました。しかしステージ上で吹いている私は、昔同様、他の人の音が聴こえなくて……いや、私の耳が老化してるのか？

私も市民会館を見習って、リノベーションなくては……！



▲第42回定期演奏会（1991.12.8 小泉和裕先生）岐阜市民会館

岐響第102回定期の岐阜市民会館で

思ったこと

保坂淳一

岐阜県交響楽団(略称・岐響)に1994年から参加しているチェロ担当の保坂です。機関紙『ひびき』のご担当者様から今年(2025年7月6日)の岐響の第102回定期演奏会についての感想を依頼されましたので思いつくままをのべさせていただきます。

岐響の第102回定期演奏会は、お客様も団員もとても楽しめた演奏会となり本当に良かったです。会場がぎぶしんフォーラム(岐阜市民会館)大ホールでしたので、以前は低弦が聞こえないといわれても不安でした。本番前日のゲネプロで、出番待ちの団員や指揮者から低弦がよく聞こえるといわれたのには、びっくりでした。この会場ではいつも低弦が聞こえないと言われてきましたが、いつも元氣な管楽器がおとなしく聞こえたのには驚きです。

岐響の歴史を紐解くと、1957年10月に開催した第1回定期演奏会から時代からずっと岐阜市民会館(旧・岐阜市公会堂)にお世話になってきました。しかし、1998年に羽島市

文化センター(現・不二羽島文化センター)が開館されるとそちらの大ホール(スカイホール)にとつてかわりました。羽島市の大ホールは響きがよかったのと、どの客席できいてもよく聞こえるとの話が判断材料となったと聞いています。

音楽をやっている側からもまたそれを聞きに来られるお客様も演奏会場の雰囲気や響きの具合はとても大事です。

前回来られたお客様の中にはずいぶん前から市民会館の音響がよく聞かれているのに気づかれています。どうも2013年に耐震補強工事がされたて、デザイン的には開館当時のモダンな囲気が軽減されたてしまっただけですが音響

的にはよくなったようです。

岐阜県交響楽団は機会あるごとにサントリーホール、ウィーン楽友協会の黄金ホール、愛知県芸術劇場のコンサートホールなど素晴らしい会場で演奏してきました。次の80周年目指してまた素晴らしい会場で演奏出来たら嬉しいです。



▲今回の定期演奏会(岐阜市民会館)、客席の様子

お客様からのアンケートからもご感想をいただいています。

・岐阜市民会館で開催されたのが久しぶりなので、うれしいという感じもあります。(各務原市)

・直接音がめだつホールであるが、それでも30年前に比べて格段にバランスが良くなり、美しかったと思う。個人個人の技量の向上の賜物であり、コンダクターの技量の素晴らしさを感じた。(岐阜市、60才代)

・円型の客席1F23-18で聴かせていただきました。全体が見渡せて客席とステージが一体化に感じられ、響きといい雰囲気といとても心地よいものでした。各パートの良さを引き出し、温かいステージを創り出される喜古さんステキでした。(70歳代)

新連載 岐響パート紹介 第1回

オーケストラの大黒柱 それはコントラバス!!
あなたもコントラバスが好きになる

コントラバスメンバートーク

平尾真一郎(岐響歴20年)×林千佳代(岐響歴3年)が語る、
岐響コントラバス

平尾(以下、平) さて、今回より「パート紹介シリーズ」、栄えある第1回は私たちコントラバスパートが引き受けることになりました。林さん、まずはコントラバスとはどういう楽器かについて教えてください。

林 コントラバスは、オーケストラの弦楽器のなかで最低音を担当していて、響きの土台を支えています。低音でリズムをつくって音楽を進ませる役割もあります。曲の旋律を奏でる機会が少ないのですが、和音の美しいときはとても心地よい感覚に浸れます。

平 名称は「コントラバス」のほかに

「バス」あるいは「ベース」「ダブル・ベース」「ウッド・ベース」といわれることもあるよね。

林 私は中学、高校と吹奏楽部だったので、「弦バス」って言っていました。実は、高校まではサクソスを吹いていたんです。大学で管弦楽団に入って、コントラバスの体につながる低音の響きが素敵だったことと、先輩方の雰囲気を感じて、これは楽しい大学生活になるに違いないと確信してコントラバスを始めました。結果、その通りになりました！

平 コントラバスを始めてよかったって思いがすぐく伝わってくる

話だね。話は変わって、岐響コントラバスパートの印象はどうでしょうか。

林 ベーシストの根底に流れる人間性は同じなのか、岐響コントラバスのみなさんも優しくユーモアに溢れていてお菓子好きで、もちろん音楽のスキルも知識もすごく、楽しく続けられています。

平 林さんは岐響に入団してもう3年だよ。率直に、岐響に入団しての感想を聞かせてください。

林 まず、演奏会を開催する回数が多さに驚きました。入団したのが岐阜県での国民文化祭の開催年でもあったので、特別だったのかもかもしれませんが、エネルギーに音楽に向き合う団員の皆さんの姿を見て、私も頑張るぞ、と背中を押してもらいました。お客様との距離も近く、音楽をお届けできる嬉しさは本当に格別でした。地域

に根ざした、歴史と信頼のあるオーケストラだからこそだと実感しています。

平 聴いていたただお客様との距離が近いと、音楽の楽しさをより共有できるから、演奏するのがさらに楽しくなるよね！ところで今回の演奏プログラムの曲について、コントラバスの聴かせどころをあげるとしたら？

林 なんといつてもブラームス交響曲第2番の第1楽章最初、低弦から始まるテーマじゃないでしょうか。ブラームスの曲はどれも弾いていて楽しいですね！聴いていただくとお客様に曲の美しさが伝わるよう、良い響きをつくってきたいです。



コントラバスのトリセツ

○日本のコントラバスは3/4サイズ

日本の一般的なコントラバスの大きさは3/4サイズで全高約180cm、海外製は4/4サイズで約200cmです。日本人向けに設計されています。4弦と5弦の2種類があり、4弦の最低音はE(ミ)、5弦の最低音はさらに低いC(ド)です。モーツァルトやベートーヴェンの楽曲では、5弦の活躍の場が多くあります。本体の重さは平均で約10kgです。岐阜県交響楽団にも5弦を弾く奏者がいます。どこにいても探してみてください。

○コントラバス奏者は裏方屋

オーケストラにとってコントラバスは必要不可欠な大事な楽器です。しかし知名度は低く、時として「大きなバイオリンだ」と言われるのが残念です…。

メロディを弾く機会は少なく、伴奏をすることが多く、たとえ活躍するチャンスがやってきても、金管楽器と一体化してしまいます(一体化とは金管楽器に消されてしまうこと)。そんなコントラバスですが、私たち



コントラバス奏者は、確固たる結束力をもって裏方に徹する、控えめで人を思いやる心をもった素敵な集団であります。

○楽器ケースは寝袋に
楽器がほぼ人間と等身大であるので、その楽器ケースも大きく、楽器の持ち運びや準備から演奏に至るまで過酷な肉体労働です。ハードケースではないため、雨の日の移動は自分より楽器に傘をさすことになります。そのために筋力トレーニングに励む人もいます。楽器ケースには寝袋の代わりになるというメリットもあります。合宿などで疲れたり、本番までの待ち時間で睡眠に襲われたりしたとき、楽器ケースにくるまれてよく眠れます。

(ニッケネーム/楽器歴)

コントラバスの本音

ここでしか聞けない
パートの本音をインタビュー!!

Q.コントラバスを選んだ理由は?

A. 中学3年生の時に「誰かコントラバス弾いてみたい人」に手を挙げました。オーケストラには大学1年生の時に、田中陽治さんに誘惑されて即日入団しました。(lwapyon/52年)

A. 大学の正門に入り、最初に勧誘を受けた先輩に「楽器が演奏できるようになれば」と話したら、「だったら一緒にやろう」と言われランチをおごってもらい、見に行ったらオケでベースでした。(ぎんちゃん/36年)

Q.違う楽器を演奏するなら?

A. バイオリンです。メロディが弾きたくて岐響入団前、松原先生について練習していました。一度、バイオリンで演奏会に出たこともあります。(ペンネーム がんばれ根尾/楽器歴 30年)

A. ビオラです。中低音の響きや音色が好きで持ち運びするのもちょうど良さそうだったからです。(Bass24/47年)

Q.思い出に残っている曲は?

A. サントリーホールでの「夢の跡へ」。50周年記念作品の委嘱を担当し、作曲いただいた池辺晋一郎先生の岐阜への熱い思いを何度もうかがっていたからです。(マエストロの域に届かないウシロストロ/52年)

A. 岐響に見学へ行った次の週に乘坐していただけることになった屋外コンサートにて。見学から演奏会までのスピード感、たくさんのお客様と伸び伸び身体を動かした清々しさが決め手です。(ほんわかーさん/約20年)

A. 入団1年目の飛騨古川合宿でのコンサートです。各パートそれぞれレッスンした直後のブラームス1番は、色んな意味で全身が震えた本番でした!(ピュアで情熱家なこじかちゃん(動物占いより)/33年)

番外編

Q.遠足のおやつに
持っていくなら?

A. キャラメルです。単位容積あたりのカロリーが最も高いと思います。遭難対策。(ベース医者/45年)

A. ヤングドーナツです!異論認めず!
(年末までに5キロ痩せます/8年)

最近の演奏会より

今号の最後に、最近行われた2つの演奏会をご紹介します。

「令和7年度 実演芸術アウトリーチ事業

可児市立兼山小学校」

2025.9.28 可児市 兼山地区センター

兼山小学校は、森蘭丸(もり らんまる)生誕の地・兼山にある学校でした。

学校には県内唯一で、40年の歴史を持つ「金管バンド RANMARU」があり、地域あげて応援されているとのことでした。

演奏会ではバンドとはまた違った「オーケストラでの金管の役割や響き」がお伝えできたかな、と思っています。また、指揮者コーナーでは実際にオーケストラを指揮してもらい、堂々とした指揮ぶりに大拍手でした。



「第102回定期演奏会」

2025.7.6 ギふしんフォーラム(岐阜市民会館)

～こちらはご来場いただきましたお客様からのアンケートをご紹介します～

- ・エネルギーな演奏と指揮者の表現力、ソロパートの力強く繊細な演奏に暑さも忘れ、とても清々しい時間を過ごすことができました。
- ・シンフォニーに踊りの雰囲気がとても出ていて、良かったです。3楽章のピチカート、4楽章の冒頭や終盤のテンポの変化など、飽きさせない仕掛けが感じられました。楽しかった！
- ・「眠れる森の美女」の映画を何度も見たことがあり、その音楽も大好きなので、オーケストラで鑑賞することができて感動しました。今日は私の誕生日だったので最高のプレゼントでした。
- ・初めて生でオーケストラを聴きました。感動です。8月ベビー生まれますが、お腹の中でベビーも喜んでいました♪
- ・皆様が一体となって一つの音楽を作っている気持ちが伝わってきました。特に第4番へ短調は、美しさと力強さテクニックも含め、気迫みなぎる演奏でした。弦全員のピチカート、すばらしかった
- ・ファミリーコンサートでもないのに、子どもがいつもより多く感じました。とても良いことです。料金設定もあるかと思います。(この物価高の中)こんなすばらしい演奏をこの値段で聴けるのは幸せです。
- ・耳が幸せでした。

